

「乳癌症例における背景乳腺組織と原発腫瘍の FDG-PET 集積に関する後ろ向き研究

」に対するご協力をお願い

研究責任者 岩渕雄
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 放射線科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2020 年 8 月 25 日から 2025 年 5 月 15 日の間に当院にて FDG-PET/CT 検査を受けた女性の方

2 研究課題名

承認番号 20251070

研究課題名 乳癌症例における背景乳腺組織と原発腫瘍の FDG-PET 集積に関する後ろ向き研究

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 岩渕雄

4 本研究の目的、方法

18F-fluorodeoxyglucose(FDG) PET/CT (Positron Emission Tomography/Computed Tomography) 検査とは、陽電子を放出する放射性薬剤を用いる核医学検査の一種です。FDG という放射性薬剤を体内に投与し、その放射線を特殊なカメラでとらえて画像化します。FDG はグルコース（ブドウ糖）の類似体であり、腫瘍や生体内臓器の細胞内に取り込まれます。癌細胞や腫瘍細胞はグルコースを通常の細胞より多く取り込むため、FDG PET/CT 検査は実臨床では多くの悪性

腫瘍に対する画像診断検査として行われています。全身を一度に調べることができ、腫瘍の大きさや場所の特定、良性・悪性の区別、転移状況や治療効果の判定、再発の診断などに利用されています。腫瘍の形態だけでは判断がつかないときでも、生理的な機能を可視化することで精度の高い診断をすることができます。

FDG PET/CT 検査は乳癌の精査としても当院で数多く行われています。正常の乳腺組織にも糖代謝により FDG の取り込みがわずかながら行われ、これを画像化することができます。本研究では、乳癌患者さんと非乳癌患者さんにおいて背景正常乳腺の FDG PET/CT の生理的集積の強さや乳癌自体の集積の強さを調べることににより、どのような傾向があるのか検証することを目的としています。乳癌の組織型による集積の違いや新たな乳癌のバイオマーカーとなることを目指し、それにより早期の診断、治療に貢献することのできる研究を目指しています。

5 協力をお願いする内容

本研究では FDG PET/CT 検査で得られた既存のデータのみを使用させていただくため、新たな身体的負担はありません。

研究を行う上で、診療録を閲覧させていただく必要がありますが、本研究で収集する情報は本研究に関連すると考えられる情報に限られます（明らかに関係のない、他科受診歴の情報などは収集しません）。この研究により得られた結果は国内外の学会や論文により発表、公開する予定です。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2028 年 03 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

研究責任者：慶應義塾大学医学部放射線診断科 岩渕雄（イワブチ ユウ）

連絡先：03-3353-1977

メールアドレス：iwabuchi@rad.med.keio.ac.jp

以上